

2026 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」公募助成
公開オンラインプレゼンテーション

【日時】 2026 年 3 月 22 日(日) 14 時 00 分～15 時 45 分(予定)

- ※ 企画概要は申請書記載の内容を転載。
- ※ ◆＝調査研究部門 ★＝広報・社会訴求部門 ◎＝市場”緑化“部門
- ※ 発表 10 分／質疑応答 10 分

開会あいさつ＋選考委員紹介 14:00～14:10
霞ヶ浦(北浦・西浦)湖内のネオニコチノイド系農薬およびその代替農薬濃度の季節変化ならびに当該農薬類の暴露がユスリカ類幼虫の死亡率や羽化障害におよぼす影響に関する研究◆ 中里亮治 14:10～14:30
2025 年度に引き続いて霞ヶ浦(北浦)の湖内におけるネオニコチノイド系農薬およびフロニカミド等の代替農薬濃度の季節変化の実態を明らかにする。また西浦も調査対象とする。貧酸素環境条件下での底泥からのネオニコチノイド系農薬の溶脱の有無を調べる実証実験をする。さらに複数種のユスリカ幼虫(オオユスリカ、アカムシユスリカ、コガタユスリカなど)に対する農薬の長時間暴露影響を調べる室内実験を行い、ユスリカ種毎の慢性毒性値を評価する。
室内ほごりに含まれるネオニコチノイド系農薬調査◆ 一般社団法人 農民連食品分析センター 14:30～14:50
室内に溜まるほごりに、どのようなネオニコチノイド系農薬が、どの程度存在しているのかを調べ、利便性の向こう側で見えにくくなっている現状を可視化、住環境にある身近な課題として認識を持つきっかけに繋がるデータの収集に取り組む。
秋田におけるネオニコチノイド系農薬汚染の実態の定量的解明と環境・食の安全基盤構築の県民的展開(3)◆★◎ 秋田の環境を考える県民の会 14:50～15:10
2023 年 8 月、秋田市の水道水から EU 基準の 30 倍超のネオニコチノイド系農薬ジノテフランと同 5 倍超のスルホキサフルールが同時検出され衝撃が走った。この調査を主導した「県民の会」の 2024,25 年度の活動により、県民自ら流域規模でのネオニコチノイド系農薬汚染の実態を把握し自覚しつつある。再申請で活動をより強化し、県民のネオニコチノイド系農薬暴露量を解明し、対策の必要・緊急性を周知する。最新結果を基に学習会や連帯活動を引き続き県内各地で実施し、環境・農業・食の実態と課題を共有し、安全で豊かな環境と食をつくる取り組みを強力に推進する。
「世界自然遺産の島」の水田における各種浸透性農薬の検出状況とその使用実態の解明◆ 城本啓子 15:10～15:30
世界自然遺産登録地の西表島を含む八重山地域の水田において、ジノテフランをはじめとしたネオニコチノイド系農薬が広く使われるようになってきており、その環境影響の実態把握が急務となっている。本企画は、前年度に引き続き、ネオニコチノイド系農薬 4 種とフィプロニル分解物の計 5 種の水中濃度を測定し、その由来を明らかにするものである。調査地点数を絞ることで効率化を図りつつ、地域全体での農薬検出状況を継続的に把握し、科研費課題や市民・行政団体との連携を通じて、生物多様性保全と両立可能な農薬使用の在り方を現場に還元することを目的とする。
会場からのコメントへの応答 15:30～15:40
連絡事項＋閉会あいさつ 15:40～15:45